

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：35402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780266

研究課題名(和文) 資源動員プロセスにおける管理会計の役割に関する研究

研究課題名(英文) The role of management accounting in the resource mobilization process

研究代表者

天王寺谷 達将 (TENNOJIYA, Tatsumasa)

広島経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：60709773

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、管理会計を構成する「計算の方程式」に着目し、文献研究およびケース研究を通じて、資源動員プロセスにおける管理会計の役割を捉えた。また、管理会計が資源動員を可能とさせるための施策も提示した。
本研究の主たる成果は、管理会計手法の「計算の方程式」の正当性は、その資源動員力を捉える際に有用であること、「影響の幅」を広げるように設計された「計算の方程式」は、資源動員を促すことを明らかにしたことである。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the 'equation of calculation' which is a structural element of management accounting, and grasped the role of management accounting in the resource mobilization process through the literature and case study. It also gave a policy for enabling management accounting to mobilize resources.
The main result is finding that the justification of the 'equation of calculation' of management accounting is a useful concept in grasping its power of mobilizing resources and the 'equation of calculation' designed as expanding the 'span of influence' promotes resource mobilization.

研究分野：会計学

キーワード：イノベーション マテリアルフローコスト会計 資源動員プロセス

1. 研究開始当初の背景

管理会計研究の文脈では、Simons(1995)がインタラクティブコントロールシステム概念を提示して以来、管理会計を中心とするマネジメントコントロールシステムが、実際にはイノベーションを補助している、さらには促進しているということをサポートする研究が蓄積されてきているが、イノベーションにおける管理会計の役割について、「管理会計はイノベーションの場を創る」という抽象的な理解しか提供できていない。

抽象的な理解に留まってしまう問題は、Simons のインタラクティブコントロールシステム概念が、情報の利用方法のみに焦点を当てており、各管理会計手法には焦点を当てていない点に関係している。すなわち、管理会計が作り出した情報と、経営資源などの実体との関係性には焦点が当てられていないのである。イノベーションのプロセスは「資源動員のプロセス」であることに鑑みると、イノベーションにおける管理会計の役割についての理解を深めるためには、この情報と実体との関係性に焦点を当てる必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、実際に経営資源が動員される時点において管理会計がいかにして役立っているか、すなわち「資源動員プロセスにおける管理会計の役割」を明らかにすることである。

3. 研究の方法

管理会計を構成する「計算の方程式」に着目し、文献研究およびケース研究を行った。当該研究は、(1) マテリアルフローコスト会計を対象にした「計算の方程式」に着目した研究、(2) Simons の理論面での貢献に着目した研究、(3) 管理会計手法が資源動員力を発揮するための条件に関する研究の3つのプログラムから構成される。

4. 研究成果

(1) マテリアルフローコスト会計を対象にした「計算の方程式」に着目した研究

マテリアルフローコスト会計(MFCA)の「資源生産性の方程式」の正当性に焦点を当て、イノベーションを駆動するにあたってのMFCAの強みとして、環境負荷の削減に関する規範的性質、改善効果の物質的可視性、貨幣情報を介さないコミュニケーションの可能性、経済的効果の確実性を抽出した。これらの発見事項は、会計計算手法によって正当性のレベルは異なり、結果、資源動員の正当化の実現可能性は異なる、さらに動員されやすい資源も異なるということを示唆する。本研究では、イノベーションを駆動する会計計算の役割についての理解を深めるための一

つの手段として、会計計算が有する「計算の方程式」の正当性に注目する有用性を、MFCAを事例とした探索的な考察を通じて示したが、会計計算の実践は、それを取り巻く要素との関係性の中でなされることに鑑みれば、会計計算が正当化にあたって担う具体的な役割や正当化への寄与の形態は個々の事例によって異なるはずである。したがって、イノベーションを駆動する会計計算の役割についての理解を深めるためには、会計計算が有する「計算の方程式」の正当性に注目した上で、会計計算を取り巻く要素との関係性の中でなされる資源動員の正当化プロセスを捉える事例が重要となるが、これは今後の課題である。

また、MFCAがイノベーションを促進するための方策として、エンジニアがMFCAのデータを活用した新技術の提案を行うことができるような組織体制・システムを構築すること、過品質をキーワードにし、サプライヤーとコミュニケーションを行うこと、サプライヤーから信頼を得る手段として「共有されている期待」を表すロードマップを作成し、それにトップマネジメントが正当性を付与すること、資源生産性に関する目標を設定し、それを業績評価指標に組み込むこと等を提示した。MFCAがイノベーションを推進する力を有していることは先行研究からも明らかであったが、MFCAのイノベーション推進力について体系的に理解する段階には至っておらず、「資源動員の正当化プロセス」の視点から体系的な知見を導出した本研究は、この点で新規性がある。

(2) Simons の理論面での貢献に着目した研究

Simonsの一連の研究のレビューを通じて、イノベーションと関連がある概念として、インタラクティブコントロールシステム、診断型コントロールシステム、インタラクティブネットワーク、創造的緊張の4つの概念を抽出し、「イノベーションを促進するための管理会計情報の設計」に焦点を当てた分析フレームワークを構築した(表1)。さらに、これを用いて既存のイノベーションと管理会計研究を考察した結果、戦略面の不確実性のコンテキスト依存的な性質を踏まえた上で戦略面の不確実性と管理会計情報の関係性を捉える研究や、影響の幅を広げるといった観点から、イノベーション促進の局面での管理会計情報の構築的役割を捉えた経験的研究などがイノベーションを促進する管理会計の役割の理解を進めるために必要であることを明らかにした。本研究の貢献は、提示した分析フレームワークが、イノベーションを促進する管理会計の役割についての理解を促し、その発展に貢献できるかに依存する。本研究の成果が、今後のイノベーションと管理会計に関する研究に影響すれば、管理会計とイノベーションの関係性についての理解

は促進されるであろう。

表1. 分析フレームワーク

インタラクティブコントロールシステムの中で管理会計情報を利用	スタイル	管理会計情報の構築的役割
適切な管理会計情報の選択(分析、理解容易性)	管理会計情報の設計	影響の幅を広げるための管理会計情報指標(厳しい目標の設定、アカウントビリティの幅の拡張)
インタラクティブコントロールシステムを有効に機能させるための条件	補完条件	診断型コントロールシステム、インタラクティブネットワーク、創造的緊張に関する条件

(3) 管理会計手法が資源動員力を発揮するための条件に関する研究

管理会計手法が導入される局面に着目した研究を行った。採用者である製造現場の抵抗に着目した考察を行い、既存手法との適合性を高めることが、抵抗の問題に対処する適切なアプローチであること、そのアプローチの一手段として管理会計手法の位置付けを変えることが挙げられること、さらに、そのプロセスにコンサルタントなど提供者側のアクターを巻き込むことが有効であることなどを明らかにした。当該研究は、管理会計イノベーションの普及研究としても位置付けられるものであり、普及問題の解決方法の一つとして、管理会計手法の位置付けを変える方法を提示し、その重要性を強調した初めての研究である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

天王寺谷達将 (2018) 「イノベーションと管理会計研究の今後の方向性 Robert Simons の理論面での貢献の考察を足掛かりとして」『管理会計学』第26巻第1号、pp. 43-60、査読有

Tennojiya, Tatsumasa (2015) “A study of material flow cost accounting (MFCA) diffusion: the case of MFCA as a production improvement tool” Irwin, R. and Schaltegger, S. (eds.) *Proceedings of the first WBCSD and EMAN joint International Sustainability Accounting Symposium, Geneva, 2015*, pp.

72-77, 査読有

天王寺谷達将 (2014) 「管理会計イノベーション導入時の抵抗の考察 理解の深化を目指した探索的研究」『広島経済大学経済研究論集』第37巻第3号、pp. 155-165、査読無

[学会発表](計5件)

Tennojiya, Tatsumasa, Higashida, A., Kitada, H., and Kim, J. “Exploratory Study for Continuous Use of Material Flow Cost Accounting” Centre for Social and Environmental Accounting Research (CSEAR) North-Asia Hong Kong Conference 2017 (At Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong), 2017年12月5日

天王寺谷達将 「イノベーションと管理会計研究の今後の方向性についての一考察 Robert Simons の貢献と限界の考察を足掛かりとして」日本管理会計学会2017年度全国大会(於福岡大学) 2017年8月28日

Tennojiya, Tatsumasa “Relocating Management Accounting Innovations to Promote their Diffusion: Ways of Improving Compatibility” 8th Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting (APIRA) Conference (At RMIT University, Melbourne), 2016年7月14日

Tennojiya, Tatsumasa “A Study of Material Flow Cost Accounting (MFCA) Diffusion: The Case of MFCA as a Production Improvement Tool” World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) and Environmental and Sustainability Management Accounting Network (EMAN) joint International Sustainability Accounting Conference (At WBCSD, Geneva, Switzerland), 2015年10月1日

天王寺谷達将 「マテリアルフローコスト会計の生産革新ツールへの翻訳 管理会計イノベーションの普及研究に対する貢献を目指して」日本原価計算研究学会第40回全国大会(於神戸大学) 2014年9月20日

[図書](計3件)

國部克彦、中島道靖、天王寺谷達将他 (2018) 『マテリアルフローコスト会計の理論と実践』同文館、320(59-77、209-232)

國部克彦、澤邊紀生、松嶋登、天王寺谷達将他 (2017) 『計算と経営実践 経営学と会計学の邂逅』有斐閣、255(99-136)

Hamada, K, Hiraoka, S, Tennojiya, Tatsumasa, et al. (2017) *Japanese Management and International Studies Vol. 13; Management of Innovation*

Strategy in Japanese Companies, World
Scientific Publishing, 251 (95-108)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

天王寺谷 達将 (TENNOJIYA, Tatsumasa)

広島経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：6 0 7 0 9 7 7 3